

# 東アジア戦略概観

East Asian Strategic Review

2010

防衛省防衛研究所

The National Institute for Defense Studies, Japan



## はしがき

本書は、防衛研究所の研究者が独自の視点から東アジアの安全保障環境について分析・記述したものであり、政府あるいは防衛省の見解を示すものではない。記述の対象期間は、2009年1月から12月までの1年間である。国・地域別に1年間に生じた安全保障に関わる主要な事象について分析しているだけでなく、東アジア地域の安全保障を考える上で重要と思われる問題についても、2つの章を設けて分析している。

今回は、第1章で、核軍縮への気運が高まる中、核軍縮や核拡散防止に対する核兵器国の取り組みの現状と課題等について分析した。第2章では、米国のオバマ政権のアフガニスタン・パキスタン新戦略でも焦点となっている、パキスタンにおけるテロとの闘いの困難な現状等について分析した。国・地域別の各章では、北朝鮮の内外政策や韓国の対北朝鮮政策、建国60周年を迎え国際的な存在感をますます高めつつある中国の動向、ASEAN諸国の情勢やASEANの域内・域外関係の現状、新たな国家安全保障戦略を策定したロシアの外交や軍改革の現状、オバマ米国新政権が直面している内政、外交および安全保障上の諸課題、日本の新政権の安全保障政策をめぐる動き等について分析している。

本書の執筆は、伊豆山真理、室岡鉄夫、阿久津博康、飯田将史、齊藤良、増田雅之、松浦吉秀、兵頭慎治、秋本茂樹、坂口賀朗、片原栄一、塚本勝也、高橋杉雄が担当した。なお、小川伸一氏には執筆に対してご協力を頂いた。また編集作業は、兵頭慎治、橋本靖明、奥平穰治、山添博史、新垣拓、鶴岡路人、福島康仁、一政祐行、佐竹知彦、石原雄介、鷺野悦子が担当した。

平成22年（2010年）3月

防衛研究所 研究部上席研究官

編集長 坂口賀朗